

案件	令和3年度 第2回 東大阪市図書館協議会 会議概要
日時	令和4年1月26日(水) 午前10時00分～11時45分
場所	東大阪市立市民多目的センター 3階 大会議室1
出席委員	青山委員、大井委員、片野委員、丸山委員、西浦委員、根井委員、森委員、川原委員、嶋崎委員、初谷委員、八角委員(11名)
内容	<p>◎開会 事務局より学校連携に係る学校教育推進室担当者出席の旨報告。</p> <p>◎会議の成立状況報告 図書館協議会委員総数14名のうち出席委員11名、委任状提出委員2名 東大阪市図書館条例施行規則第14条第6号の規定により会議は成立。</p> <p>◎部長挨拶</p> <p>◎委員長挨拶</p> <p>◎案件説明及び質疑応答 案件1「図書館基本構想に係る施策の進捗状況について」【資料1-1】【資料1-2】</p> <p>《事務局》 ・資料に沿って各施策の現状を説明。</p> <p>【副委員長】 学校園向けリサイクル図書について、図書館の本は不要となったものばかりだと思いが、市民からの寄贈本も入っているのか。また、譲渡会へ出すリサイクル本は何冊ほどあるのか。</p> <p>《事務局(図書館)》 基本は、図書館で除籍になった本が対象となるが、市民から頂いた寄贈本で既に図書館での所蔵があるものなどは、譲渡会へ回す。 冊数については現在各館にて除籍作業しており、集計が取れていないため議事録で報告するようにする。(→※譲渡会用のリサイクル本の冊数：1,500冊)</p> <p>【委員長】 今後どうしていくのか。除籍本について毎年どれくらいの量が出てくるのか。</p> <p>《事務局(図書館)》 書架に限りがあり、毎年新刊本も購入するため、一定数除籍をしていく必要がある。今手元に資料がないが、数千冊の規模。</p> <p>【委員】 学校図書館に対してこの協議会がどこまで関与していくのか。</p> <p>【委員長】 学校図書館への関わり方は始まったばかりで模索中であると思うが、事務局どうか。</p> <p>《事務局》 学校との連携については図書館基本構想の中でも位置付けがある。ただ、この間学校司書の配置がなく連携も進んでいなかった。今年度より学校司書の配置がなされたことから、市立図書館も学校司書連絡会へ参加し、各学校での課題や求める取り組みが把握できるようになってきた。これをきっかけに、今後も引き続き基本構想に位置付けられているような連携を進めていく。</p>

【委員】

リージョンセンター等の活用の中で、出張図書館があるが、どれくらいの本を持って行ってるのか、また、今後他のリージョンセンターへも拡充するのか。

《事務局(図書館)》

現在布施駅前と楠根の2カ所において、どのような形で実施するのがよいのか模索しながらやっているが、現状は200冊程度。この冊数が十分だとは思っていない。冊数に関しては、今後体制も含めて考えていく。

四条のリージョンセンターは、四条図書館が隣接しているため除くが、その他4つのリージョンセンターへの拡充については、具体的に何年度からどのリージョンセンターで実施するというような具体的な計画まではできていない。移動図書館整備計画と並行しながら今後検討していく。(ステーションの整理の中で)移動図書館の巡回がなくなるような地域が出る場合などは、代わりに出張図書館でまかなう必要も出てくるが、先ほどの冊数で言うと、会場まで本を持っての移動などを考えると移動図書館のように数千冊を持っていくというのは難しい。

【委員】

移動図書館について、かなり古くなっているが新たに車を購入する予定はないのか。移動図書館を更新すれば出張図書館に力を入れなくても済むのではないか。

《事務局》

現在2台の移動図書館の老朽化が進んでいるが、移動図書館用の車を新たに購入するというのは市の財政状況からみて難しい。

色んな選択肢を提示しながら財政当局と協議を進めていきたいと考えるが、出張図書館の拡充もその一つ。電子図書館や郵送貸出、移動図書館の購入も含めて多くの選択肢を持ちながら今後より良い読書環境をつくっていく。

【委員】

購入時の所管が違うので難しい問題かもしれないが、リージョンセンターにある図書の貸し出しと図書館(出張図書館)の図書の貸し出しを並行してできないか。

また、現在大蓮分室の書庫に眠っている資料のことだが、もともと永和図書館にあった資料を新永和図書館建設にあたり、大蓮分室の書庫へ移したものだ。新永和図書館ができたならそちらへ戻し、空いた大蓮分室の部屋を利用しておはなしの会などの催しができると楽しみにしていたが、未だに大蓮図書館に資料が置いたままなので、部屋の活用ができない。リサイクル本の冊数が少ないのであれば、大蓮分室の書庫にある本から利用してはどうか。

《事務局》

まず、リージョンセンターの図書の貸し出しについては、管理が地域活動支援室となっており、当課ではないため、ご意見があったことは伝えておく。

大蓮分室の書庫の本については、現在も活用しながら貸し出しを行っている。大蓮分室の書庫にあるすべての資料を図書館に移せるかということ、毎年書籍を購入していることもあり全体の書庫のキャパの問題がある。リサイクル本としての活用は、現在大蓮分室の書籍の中からも行っている。

おはなしの会等の催しについては、図書館とも協議をしていきたい。

【委員長】

リージョンセンターの図書の貸し出しについては、これまでも話をしてきた。地域活動支援室が所管ではあるが、地域活動支援室の職員が図書室にいるわけではないため、結局先へ進まない。何か方策はないか。まず、リージョンセンターの図書を精査し図書館の本として受け入れることはできないか。図書館の本として活用できないのであれば、どう処分するのか。これらを整理をしていかないと方向性が見い出せない。この件は、もう長い間、話題になっている。協

議会も年2回しかないので、この辺りで何かアイデアが出ないかという思いである。

《事務局》

聞いている話だが、リージョンセンターの図書は、リージョンセンターが建設時に購入されたものをそのまま置いており、新たな購入もない。市としては、リージョンセンターとの連携を進めている中で、図書館のリサイクル本を譲渡して図書室の本の中身を入れ替えるといった取り組みを進めている。図書館で所管して貸し出しができるのかについては、所管等の問題もありこの場で即答はできないが、まずは、入れ替え作業を進め、リージョンセンターを利用される方に本を提供していきたい。

【委員長】

リージョンセンターとの連携は、図書館が積極的に関与してリージョンセンターの図書を入れ替え新陳代謝が進んできているのは大きな一歩。これを続けていく中で、活路を見いだしていただきたいと思う。

【委員】

学校図書館については、学校教育推進室の所管で、自分たちはどういう取り組みがされているかが、分からない。学校図書館に関しての取り組みの資料を提供してもらうことは可能か。

《学校教育推進室》

現状の学校図書館の取り組みを提供することは可能。

【委員長】

教育委員会のそれぞれの関係課の連携が目に見える形で進んできたのは近年のこと。それだけに期待が大きい。学校教育推進室としてどう考えているのか、どういう方向性を持つてるのかをお聞きできる範囲で情報共有していただければありがたい。

《事務局》

学校連携は今年度ようやく進んできた。事務局として学校司書連絡会へも参加しているので、できる範囲でご意見や情報などを委員と情報共有しながら進めていきたい。

案件2「図書館基本構想の改訂について」【資料2-1】【資料2-2】【資料2-3】

【資料2-4】

《事務局》

・資料に沿って図書館基本構想の改訂について説明

【副委員長】

【資料2-2】で、個別サービス構想に未実施項目「学校図書館システムの構築及び市立図書館システムとの連携への支援」とあるが、何年か前に学校のパソコンに図書館の本のデータを登録したと聞いているが、現在の学校司書はそのデータを活用できているのか。さらに、本のデータ登録後、本を除籍したり追加した分については更新されているのか。

《学校教育推進室》

学校ではフリーソフトを利用して本の管理をしているが、学校司書は学校配置の後、使い方の説明を受け、活用している状態。

【副委員長】

今持っている本のデータが全部入っているということか。除籍や追加のデータメンテナンスはできているのか。

《学校教育推進室》

購入や破棄したものについても登録するシステムになっている。

【副委員長】

システム上になっているというだけではなく、学校司書がその登録や削除を行っているのか。

《学校教育推進室》

本の蔵書管理については学校司書も関わってはいるが、基本的に学校の先生が行うことになっている。

【委員長】

今の質問は、ソフトの使い方を知っていることはもちろんだが、現在の蔵書の状況が個々の学校や全体として把握しているのか、またできるといいですね、ということ。

《学校教育推進室》

蔵書については把握している。

【副委員長】

では、学校の図書館担当の先生方が学校図書館システムの責任者として見ているということか。

《学校教育推進室》

その通り。

【委員長】

学校司書連絡会に、学校図書館担当の先生方が一緒に同席することはあるのか。

《学校教育推進室》

学校司書連絡会は、基本的に学校司書が参加しており、全校の教員に参加を求めるのは難しい。教員向けの研修会は別途行っている。

【委員長】

学校連携ということで両課(学校教育推進室・社会教育課)がこの協議会に出席いただけるのはありがたいことだが、実際現場でそれぞれの役割を担っている方々が、本や仕事の情報を共有できる状態になっているのかを心配してる。そのあたりはどうか。

《事務局》

学校図書館は学校教諭と学校司書が情報を共有しながら進めている。また、我々(図書館)は学校司書連絡会に参加し、学校司書からは、担当する学校図書館を良くしていきたいという思いから、たくさんの質問もいただいている。その中には、選書や配架、廃棄の方法などもあり、図書館として伝えさせていただいている。そういったものを学校の司書教諭とも共有し、協力して学校図書館の運営を進めていただいている。今後もしっかりサポートしていきたい。

【委員】

学校現場にいるという立場から、学校の様子を伝えさせていただく。今年度より学校司書を配置してもらっているが、学校に専門の職員が入ることで「読書活動」において協働して進めている。コロナ禍で読み聞かせの授業などは、なかなか外部の方に来てもらえないが、学校司書が授業を回り読み聞かせを実施したり、母語を英語とするALT(外国語指導助手)の先生が英語の図書を読み、その日本語訳を学校司書が読み、図書委員の子どもたちが補助を行い、学校の中で国際理解教育として読み聞かせ活動を行っている風景がある。

学校司書には、調べ学習に必要な国語や社会を中心とした学校教育の各教科に関する図書の選定を行う際、専門的な分野でつないでもらったり、市の図書館へ連絡し貸し出しを行ってもらっている。

電子図書館については、電子図書館の導入により、子どもたちは紙の本と iPad で選ぶ電子の本、どちらも当然のように朝の読書活動や休み時間において、その時々で自然に利用している。初め学校現場では、電子図書館にはない本が多くあるのではないかと心配したが、子どもたちは柔軟で、電子図書館に入っている本は電子図書館で、それ以外の紙で読んでみたい本は紙の本で読んでいる。また、電子図書館にない本は、保護者と一緒に地域の図書館へ借りに行ったというような話も聞いている。電子図書館を入れていただいたのは学校現場において大変助かっている。

リサイクル本は、社会教育課(図書館)から案内をもらって、学校から図書館へ取りに行かせて

もらっており、学級の図書として活用しているところもある。この間、社会教育部と学校教育部が連携していることは学校現場でも形となって届いていると実感する。

先ほどの学校司書が蔵書管理システムを理解しているかどうかという話があったが、学校司書が受けている研修内容やどういうことを理解しているのかについては、学校の図書館担当が研修や協議会等に参加した際に伝えてもらっている。蔵書管理は学校が行うが、廃棄は業務の流れでスムーズに行われているし、新しい本が必要な際も学校司書と連携して進めている。校園長会(教育施策連絡会)の中でもそういうふうに使っている。

また、読書感想文を多くの小中学校が実施しているが、昨年度はコロナで夏休みが短かったが、今年度になり電子図書で読んだ本で読書感想文を書いて提出するようにしている学校もあり、昨年と違い多くの読書感想文の参加があったと聞いている。

学校現場としては、学校図書館の本が増えるのではなくても市の図書館から多くの図書を借りられることはとてもありがたい。

【委員長】

本日せっかく市立図書館各館の館長が出席されているので、【資料 2-2】の基本構想の追加期間中、重点的に行う施策について紹介いただきたい。

まず「電子図書館」について、コロナを背景に財政的に特に国の交付金もあり今回のような措置が可能となった。学校現場では子どもたちの利用も活発であるが、継続的に利用してもらうための電子図書館の適正な規模について、今後どのように維持していくか。

続いて、それぞれの館の特徴について、基本構想に掲げているが、東大阪市のまちの特性をふまえた大きな柱である「ビジネス支援」について、永和図書館でコーナーを設置し、専門のスタッフも張り付けてもらっている中で今後の見通しをどのように考えているのか。

また、「子育て支援」について、子育て支援サービスが手厚い図書館、自治体は評判が良い。現在、四条図書館で力を入れているが、四条図書館と他のいろいろな機関や他館との連携についてはどうか。

《事務局(図書館)》

まず、「電子図書館」は、立ち上がりの部分でコロナ交付金により大きく整備できたことは、市としてよかった。今後、国の交付金がなくなった場合の維持規模について、具体の数字は読み切れていない。経常の図書購入費の中から新刊本を購入したり、一部の本については2年間あるいは52回の貸し出しが到来すると利用期間が終了するライセンスもあるため、よく読まれる本は継続してライセンスを購入していく。年間200～300万円、経常図書購入費から割ければと考えている。

今回導入しているのは TRC-DL という電子図書館システムであるが、会社(TRC)へも特に学校でよく読まれる本のセットを継続的に利用できるようなライセンス形態の商品を作るよう働きかけを行い、学校利用の図書セットを、紙の図書とは別に揃えていきたい。

「ビジネス支援」については、今のところ盛り上げる活動ができておらず、図書の貸し出しに留まっている。せっかく 2 階に商工会議所があるので、来年度以降連携しながら今後積極的に講習会やセミナーなどのイベントを周知・開催していきたい。

「子育て支援」については、私どもの中では四条図書館長が一番詳しいため、まずは四条図書館で昨秋「ベビータイム」などの取り組みを開始し、その様子を見ながら四条図書館とも連携しながら花園図書館や永和図書館の設備や環境に併せてサービスを考えていきたい。

特に花園図書館は、周辺に新築一戸建てに入居した子育て世代が増えてきている。蔵書を揃えるだけでなく、子育てに悩む保護者同士の座談会や、保健師を招いて相談に乗ってもらうようなことができればと考えている。コロナ禍でブックスタート事業も本を渡すだけで、読み聞かせの仕方等を直接説明できない状況が続いている。ウィズコロナのなかでのセミナーの開催については、会場や開催手法など考えながら実施していきたい。

永和図書館は、駅から近くベビーカーでの利用も多い。高齢の方からビジネス世代、子育て世代、小学生の子どもたちまで、全世代にわたって利用があるため、その中で「子育て支援」をどう位置付けていくか、地域性や設備も考慮しながら検討していきたい。

【委員】

各地域にある子育て支援センターとの連携の予定はあるのか。

《事務局(図書館)》

既にブックスタートで連携している保健センターのほか、子育て支援センターなど関係機関と、ニーズなど情報を共有し相談しながら、図書館としてお手伝いできるところ、発信できる情報を探していきたい。

また、子育て支援が大事だという一方で、高齢者支援についても全館で考える必要がある。全国の図書館で近年、認知症利用者の問題が発生しているので、職員研修を含めて取り組んでいきたい。

【副委員長】

電子図書館については、小中学生の利用が多いのはいいが、市内に通学の大学生も利用できるため、大学(大学図書館)へもPRしてほしい。

ビジネス支援、商工会議所との連携の部分で、商工会議所が実施するイベントでブックリストを提供するといったことはやっているのか。ハローワークにおいても就職活動に必要な資料が図書館にあるという情報を置かせてもらったりしているか。

《事務局(図書館)》

大学への電子図書館のPRは、すぐにもチラシを持って各大学へ依頼をする。商工会議所イベントでの連携については、現在手が付けられていない。各イベントに応じたブックリストを作成し、周知依頼を行うようにする。ハローワークについても就職支援資料の紹介や周知についての取り組みを実施していきたい。

【委員】

学校司書について、かなりの数を確保し、1人につき4校を回るという形で少しずつ始まり、研修を通じて(図書館が)学校司書の困りごとを具体的に吸い上げて対応していただいていると感じた。教員の中に学校図書館をどう利用すればいいかわからないということがあったとしても、こうしたことが積み重なっていくこと、学校司書が入ることで学校図書館の活性化が深まっていけばいいと思う。

電子図書館について、かなりの図書数を購入して始められ、ライセンスや人気資料など、今後予算の問題をどうするのかとと思っていたが、200~300万円くらいの予算規模で現在の水準を維持し、かつ新しいものを更新していけるという理解でよいか。

《事務局(図書館)》

タイトル数について維持できるかはまだ精査ができていないが、利用度の高いものについては維持していきたい。

【委員】

非常に難しい問題。人気のある本を更新することは電子図書館を利用してもらうために必要だと思うが、規模をどうしていくかや、更新するものを決める基準について今後教えてもらいたい。

電子化され公開されている地域資料なども、利用者数は少ないと思うが、継続・発展してもらえたらいい。

リージョンセンターが果たす役割への期待は大きいと感じた。移動図書館の代替のような形を想定しているようだが、図書館との連携がまだ十分ではなく、職員や資料の扱いなどしっかり決まっていない状態で、移行したいというのは難しいと感じる。移動図書館の代替手段として、郵送貸出や電子図書館などが挙げられていたが、移動図書館は貸し出しだけでなく、相

互貸借や相談への対応も期待されている。本の貸し出し以外のことも含めて、一緒に考えていきたい。

【委員】

電子図書館は可能性もあり問題もあるため、今後どのようになっていくか読めない部分もあるが、まずは色々な方に利用してもらうのが大前提となる。先ほどの話のように確かに大学生は知らないの、PRが必要。ただ、「知らない」だけなのか、「使い方を知らない」のか、どういう形のPRが必要なのか調査が必要かもしれない。全国のモデルケースになるかもしれないので、ぜひやっていただきたい。

リサイクル本の話だが、大学図書館でも除籍した本をいかに有効に活用するかを苦慮している。大学の除籍本は、学術書ばかりでなくいわゆる一般書も多くあり、何かしらの連携ができればよいと思った。また、ビジネス支援に関しても、今本学では、東大阪市のいろいろな企業とさまざまな形で連携がなされており、図書館が関わっていることもある。そのような点でも何かしらの連携ができるのではないかとと思う。

【委員長】

図書館の体制が変わり、各館長の紹介をお聴きすると、ICTに詳しい統括館長はじめ、それぞれに強みのある分野や他館での経験を持つ館長がそろわれている。市民の生活や人生への支援を重視されていたり、地域全体の子育て支援の水準を上げたり、災害対応なども含めてさまざまなことを見据えた図書館運営をしていただけると期待している。

案件3「その他」

《事務局》連絡事項

- ・次回の図書館協議会は、例年通り夏頃開催予定。
- ・現委員の任期は令和4年11月19日までとなるため、秋頃次期委員の推薦依頼を行う。
- ・当協議会の会議方法は、「対面での会議が可能な場合」は、これまで通りの会議開催、外出を控えた方がよいなど「対面会議の開催が困難な場合」は、オンラインか書面のどちらかで参加いただく会議開催となる。

◎閉会

◎希望の委員による永和図書館見学